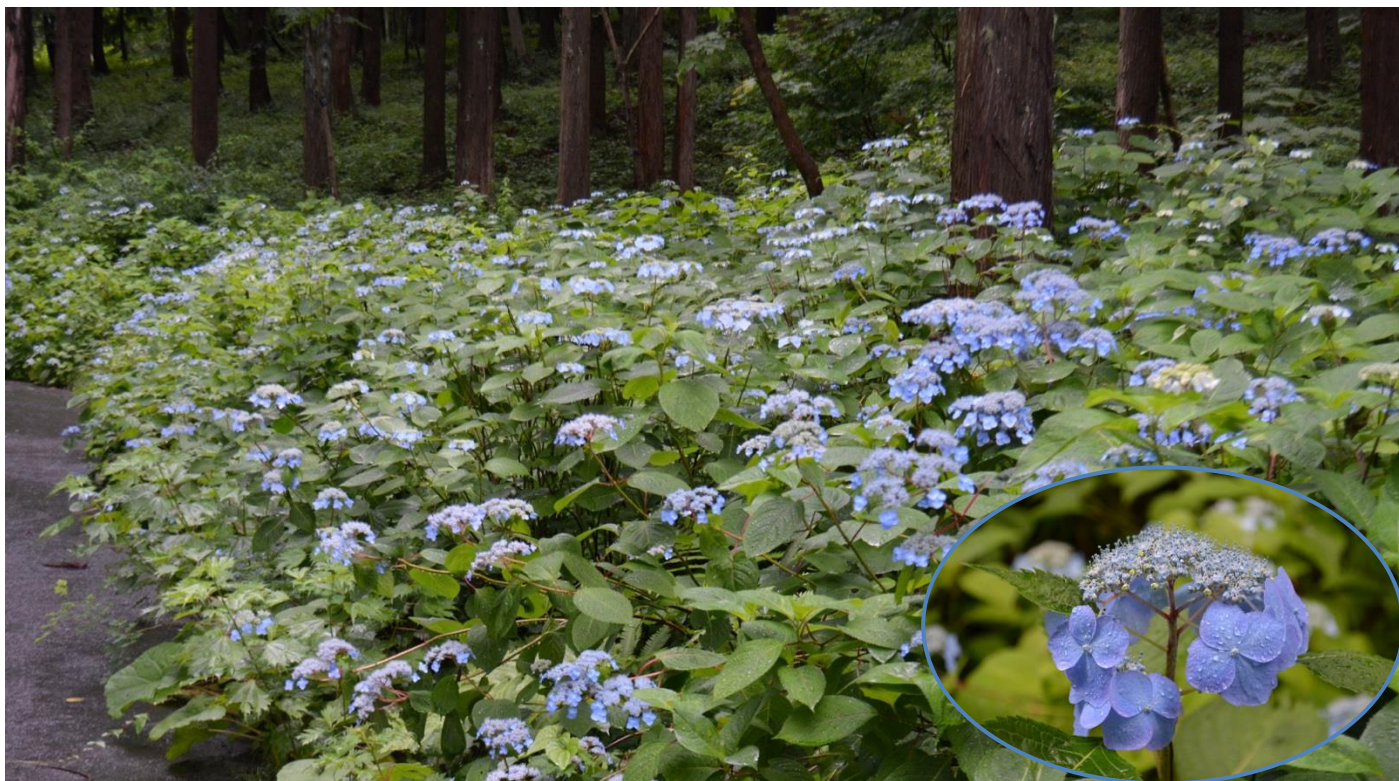


各 位

平成30年7月1日  
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3  
電話 023-634-4120

## 山形市野草園からのお知らせ



### 野草園の「アジサイロード」に咲くエゾアジサイ（前年の7月上旬に撮影）

エゾアジサイ（アジサイ科）

日本固有種で、北海道と本州北部及び日本海側の山地の斜面や沢沿いに生えます。葉は先のとがった楕円形で、縁に粗い鋸歯があり、対生します。花は青淡色の小さな両性花の周りに、花弁4個の装飾花を付けます。花の色は青色系統と赤色系統があります。

梅雨の季節に入り、野草園の夏の花たちは美しい姿を見せてくれています。園内のスギ林を東西に走る「アジサイロード」の両側には水色のエゾアジサイの花が咲き誇っています。これから園内には皿形のヤマアジサイやガクアジサイ、球形のホンアジサイも咲き始め、アジサイの季節になります。

7月上旬には町中では見る事の出来ないホタルたちが、野草園内の小川と湿地に現れます。そのため6月の最後の週と7月の第1週に『ホタル観察会』を行い、夏の夜の自然の神秘を楽しみます。暑い夏が近づいていますが、市街地と比較すると3度～5度くらい涼しい野草園。ぜひ疲れを癒しにご来園下さい。

### 野草園の7月のイベント予定

【開園時間の延長】 6月1日～8月31日は、9:00～18:00まで開園します。  
尚、入園は17:00までです。

【無料開放日】 7月1日（日）・・・市制施行129周年を記念して、大人の入園料が無料になります。

◆【山野草販売】 ○日 時 7/1（日） 9:00～16:00 ○場 所 自然学習センターピロティ

### ◆【ホタル観察会】

- 日 時 6/29(金)、30(土)、7/1(日) 7/6(金)、7(土)、8(日)  
19:30~20:30 (受付は19:00~19:30)
- 内 容 ゲンジホタルとヘイケボタルを観察し、夏の夜を楽しむ。
- 場 所 野草園内 「大平沼」北側の小川、または「ミズバショウの谷」
- 対 象 各日、先着80名程 ○参加費 無料(入園料別)
- 申込み 電話で野草園まで Tel 023-634-4120

### ◆【ガイドウォーキング】

- 日 時 7/1(日)、8(日)、15(日)、16(月・海の日)、22(日)、29(日)  
①10:00~11:00 ②11:00~12:00 ③13:00~14:00 ④14:00~15:00
- 内 容 ボランティアガイドと一緒に園内を散策します。申し込み不要、その場で参加できます。  
もちろん無料です。見どころの花の場所に案内し、その花の説明もします。
- 場 所 野草園内全域

### ◆【絶滅危惧植物パネル展】 7/14(土)~8/19(日)

- 内 容 絶滅が危惧されている植物の写真パネルを展示。
- 場 所 野草園自然学習センター内 ○費 用 無料(入園料別)

### ◆【ラベンダースティック教室】

- 日 時 7/21(土)、28(土) 10:00~12:00
- 講 師 ハーブライフ&ガーデン 佐竹文子 氏
- 内 容 ハーブ園で摘み取ったラベンダーを使ってスティックの作り方を学び、楽しめます。
- 場 所 自然学習センター ピロティ
- 参加費 スティック1本200円(入園料別)
- 対 象 各日、先着30名 ○申込み 電話で野草園まで: Tel 023-634-4120

### ◆【お山マルシェ】

- 日 時 7/21(土) 10:00~15:00
- 内 容 アジアンフードやドーナツを販売するキッチンカーなどの出店。
- 出 店 アジアン屋台ニコル食堂 ドーナツ屋maaru ride4style  
ヒマラヤカフェ 石屋 石鹼作りワークショップ
- 場 所 中央広場

### ◆【木工工作教室】

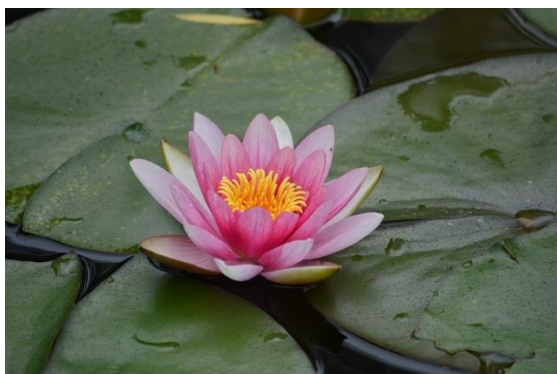
- 日 時 7/29(日)、8/5(日)、8/12(日) 10:00~12:00
- 講 師 植物案内ボランティア、野草園職員
- 内 容 野草園の木の枝や道具を使って自由に工作。
- 場 所 自然学習センター ピロティ周辺
- 参加費 無料(入園料別)
- 対 象 小学生親子 各日先着20組
- 申込み 電話で野草園まで: Tel 023-634-4120

## ●●●7月前半に見られる主な花たち●●●



### オゼコウホネ(スイレン科)

高山や北の地方の池や沼に生える多年生の水草です。水に沈んでいる葉と水面に浮かぶ葉があり、水面の葉は深く切れ込みがあります。長い花茎を水面に出し、黄色の花を1個開きます。黄色の花弁のように見えるのは萼片で、内部に小形の花弁があります。コウホネとは雌しべの柱頭盤が赤いことで区別できます。



### スイレン(スイレン科)

水底の土中に根と地下茎があり、葉と花は水面に浮きます。スイレン属は花が美しいのでよく栽培されます。葉の形は円形で一方が深く切れ込みます。花の花弁と雄しべは多数あり、雌しべは合生して柱頭は放射状になります。「睡蓮」の名は「朝に花が開いて夜に閉じる」つまり、睡る蓮ということでした。



### キリンソウ(ベンケイソウ科)

海岸の岩上や山地の草原、林縁などに生える多年草です。葉は一般に互生し倒卵形または長楕円形で先端はやや丸く、基部はくさび形でほとんど柄はありません。茎の先に多数の黄色い花をつけます。花弁は5個で披針形、先は尖ります。名は黄色い花が輪になって咲くからつけられたようです。



### キンコウカ(ユリ科)

山地帯～高山帯の湿地や湿原に生える多年草で、群生して咲きます。葉は中脈から折りたたまれています。花茎は高さ20～40cmで総状に多数の黄色い花をつけます。開花すると雄しべの花糸に縮れ毛が密生します。花後、花被片は緑色になります。名は花色から「金光花(キンコウカ)」とつけられたようです。



### ハナショウブ(アヤメ科)

山野の草原や湿原に生える多年草でハナショウブの原種です。葉の幅が狭く、中肋(葉の中央にある葉脈)が太くはっきりした筋となる特徴があります。赤紫色の花を開き基部に黄色の斑紋があります。全体が細長く、外花被片は楕円形、内花被片は小さなへら形で直立していることで、ハナショウブとは区別できます。名は野生のハナショウブの意味だそうです。



### シモツケ(バラ科)

山地の日当たりのよいところに生える高さ1m程になる落葉低木です。枝は褐色。葉は互生して形は卵形、縁に鋸歯があります。花は散房状にたくさんの小さな淡い紅色の5弁花をつけます。たくさんの雄しべでフワツとした花姿に見えます。名は生育地の下野国（現在の栃木県）からつけられたようです。



### アカバナシモツケ (バラ科)

山の日当たりの良い草地に生える、草丈50～80cmの多年草です。葉は掌状に深く5～7裂し鋸歯があります。茎先に集散花序をつくり紅色の小花をたくさんつけます。小花の花弁は4個で多くの雄しべが花から突き出てフワツとした感じがします。名の由来は花がシモツケと似ているからです



### アワモリショウマ (ユキノシタ科)

九州～近畿地方の山地などに自生しますが、観賞用に庭園にも植えられる多年生草本です。葉は2～4回3出複葉で硬くて光沢があります。茎の上部に円錐花序をつくり、淡紅色の小花を多数つけます。小花が泡を盛ったように多数つく姿に名前の由来があるようです。



### ラベンダー(シソ科)

地中海沿岸地方原産の常緑小低木です。茎は小枝を多く分枝し、葉は線状被針形です。夏、枝先に花穂をつけ、淡紫色の唇形花を多数開きます。数あるハーブの中でも、人気の高いのが本種で、草全体から良い香りを放つため「香りの女王」とも呼ばれます。花を蒸留して揮発性のラベンダー油をとり、香料・薬用とするそうです。



### ウツボグサ(シソ科)

各地の山野の草地に普通に見られる多年草です。茎は四角形で直立か、やや斜めに立ち上がります。葉は対生し長橢円状披針形です。茎の先に花穂をつけ、紫色の唇形花を密につけます。夏になると花穂は枯れて黒っぽくなります。この穂を夏枯草といい、利尿薬とするそうです。



### オカトラノオ(サクラソウ科)

山地や丘陵などの日当たりのよい草地に生える多年草です。茎は円柱形で直立し、ほとんど分岐しないで基部は紅色をおびます。葉は互生し短い柄があり長楕円状披針形です。茎の頂きに一方に傾いた総状花序を作り、多数の小さな白い花を密につけます。名は「岡虎の尾」で、岡によく見られ花穂がトラの尾に似ることによるそうです。



### メタカラコウ(キク科)

深山の湿地に生える多年草で、茎は直立して枝分かれません。葉には長い柄があり、三角状心形です。茎の先に黄色い花を総状につけ、花は数枚の舌状花があり、中央に筒状花が集まっています。名は、雌タカラコウで、雄タカラコウよりもやさしい作りであることによります。



### ホンアジサイ(アジサイ科)

「アジサイ」は、アジサイ属植物の一部の総称で、他との区別のため、「ホンアジサイ」と呼ばれます。原種は日本に自生するガクアジサイで、萼が大きく発達した装飾花を持ち、花序の周辺部を縁取るように並び、「額咲き」と呼ばれます。花序が球形ですべて装飾花となったアジサイは「手まり咲き」と呼ばれます。



### ヤナギラン(アカバナ科)

山地の日当たりのよいところに生える多年草です。茎は直立して分枝せず、葉は互生し披針形で葉柄はなく裏面はやや白色を帯びています。茎の先に多数の紅紫色の花を開き、だんだん下から上へ咲き上がります。先駆植物で、山野が工事跡などで荒れると進出しますが、木が茂ると姿を消します。名は花が美しい蘭に、葉が柳に似ていることによります。



### キクイモモドキ(キク科)

日当たりの良い所に生育する多年草です。黄色の舌状花と筒状花からつくられ、まるで小さなヒマワリのような花です。繁殖力が強く園内のあちこちで咲いています。ヒマワリ属のキクイモ（菊芋）によく似ているので名がつけられたようですが、根茎の先は芋になりません。別名はヒメヒマワリです。



### ヨツバヒヨドリ(キク科)

北海道～本州中部以北の山地に生える多年草です。背丈は1m前後で、長楕円形の葉を3～6枚輪生する点が特徴です。茎頂に淡紅色か白色の小さな頭状花を多数つけます。渡りをする蝶の「アサギマダラ」が吸蜜する植物の1つです。



### オオバジャノヒゲ(ユリ科)

山地の林内に生える多年草です。まがり気味の花茎を出して、その上に淡紫色の小さな花をつけます。まれに白花もあるそうです。花には細い花柄があり、2～3個ずつ集まって横や下を向きます。種子は濃い青色に熟します。ジャノヒゲに比べて葉は幅広いので見分けがつかず。名は、葉を竜(蛇)のヒゲにたとえたものです。



### クガイソウ(オオバコ科)

山地の日当たりのよい草地に生える多年草です。葉は長楕円状披針形で、4～8枚が輪生して数層となります。茎の頂きに穂のような長い総状花序をだし、多数の花を開きます。青紫色の花は下の方から順次上の方に咲いていきます。名の由来は多層に輪生する葉の様子からつけられたようです。



### カライトソウ(バラ科)

山の草原に自生します。草丈は50cm～1m、茎は上の方でよく枝分かれます。葉は楕円形で、フチに波形のギザギザが入ります。花茎に4～10cmの花穂がつき、先端から根元に向かって小花が咲き進みます。目立つ花びらはありませんが、雄しべ(花糸)が紅紫色で1cmほどの長さがあり、花の外に突出したような感じになります。



### クマノミスキ(ミスキ科)

山地の林に生え、高さは8～12mです。葉は枝に対生し、形は楕円形で縁は全縁です。裏面はやや粉白色です。花期はミズキより1ヶ月遅く、新枝の先に散房花序をつけます。たくさんの白色の小さな花は4弁花です。秋になると果実は黒く熟し、果柄は赤く珊瑚のようにも見えます。名は三重県熊野に産するミズキの意味です。